

川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その4 2011年度半ばから2012年度半ばにかけての活動

- 1) 大学コンソーシアム岡山 川崎医科大学 運営委員, 各種委員会委員, 社会人教育委員会委員長
- 2) 川崎医科大学衛生学
- 3) 大学コンソーシアム岡山 対面・遠隔講義委員会委員
- 4) 川崎医科大学自然科学
- 5) 大学コンソーシアム岡山 地域貢献委員会委員
- 6) 川崎医科大学医用中毒学
- 7) 川崎医科大学小児科学
- 8) 大学コンソーシアム岡山 川崎医科大学 代表者
- 9) 川崎医科大学学長

大槻 剛巳^{1,2)}, 虫明 基^{3,4)}, 富田 正文^{5,6)}, 寺田 喜平^{5,7)}, 福永 仁夫^{8,9)}

(平成24年8月25日受理)

External activities, such as university cooperation, industry-university-government cooperation and others in Kawasaki Medical School: part 4

- Activities from the middle of the 2011 fiscal year to the middle of 2012 -

Takemi OTSUKI^{1,2)}, Motoi MUSHIAKI^{3,4)}, Masafumi TOMITA^{5,6)},
Kihei TERADA^{5,7)}, Masao FUKUNAGA^{8,9)}

1) Consortium of University in Okayama (CUO), acting committee member of the Kawasaki Medical School, Member in various committees in CUO, Chairperson of the Continuing Education Committee in CUO

2) Department of Hygiene, Kawasaki Medical School

3) Member of the committee for face-to-face and distance learning lecture in CUO

4) Department of Natural Science, Kawasaki Medical School

5) Member of the committee for regional contribution in CUO

6) Department of Medical Toxicology, Kawasaki Medical School

7) Department of Pediatrics, Kawasaki Medical School

8) Deputation from Kawasaki Medical School in CUO

9) Dean, Kawasaki Medical School

(Received on August 25, 2012)

抄 録

川崎医科大学では, 大学連携・産学官連携をはじめ, 多くの地域に根差した対外活動に参画している。高等教育機関として, 医科単科大学という枠組みを超えた中での展開がある。これら参画し

ている種々の事業の概要や参画状況については、2011年度に本誌で紹介したが、本稿では、2011年度半ばから2012年度半ばまでの約1年間の活動報告を行う。特に大学コンソーシアム岡山では「岡山オルガノン」事業を継承し、活動の変化が生じており本学の参加の状況も変化しつつある。この点を中心に、対外活動の報告とともに、それらについて本学の対峙すべき姿勢などについても考察する。

キーワード：大学連携事業，大学コンソーシアム岡山，倉敷市大学連携推進会議，産官学連携事業

Abstract

Kawasaki Medical School has been participating in various external activities such as university cooperation and collaboration with industry, academia and government bodies located in the regional area. Beyond the general tasks associated with university and medical teaching, training and research, these activities are directed at the higher educational institution level. Although details concerning all of these activities including participation of the Kawasaki Medical School had been introduced in this journal in 2011, in this article we report on activities from the middle of the 2011 fiscal year to the middle of 2012. In particular, reference shall be made to the changes in activity of the Consortium of University in Okayama (CUO) since it inherited the various activities performed in "Okayama Organon", and given the manner by which the tasks executed by the Kawasaki Medical School in CUO have been modified. In this article, we report on these changes in our activities and discuss our approach in adapting to these various external activities.

Key words: University Cooperation, Consortium of University in Okayama, Kurashiki University Cooperation Promotion Meeting, Industry-Academia-Government Collaboration Enterprise

はじめに

川崎医科大学では、種々の対外活動を行っている。本稿では、それらの中で筆頭著者が学長補佐職として対応している大学連携、産官学連携などの事業について、特に2011年度半ばから2012年度半ばまでの活動について、報告する。

関連する事業については、表1に示す。これらの事業内容や、本学の関わりについては、2011年に本誌に論文として紹介したので参照いただきたい¹⁻³⁾。

これらの中で、特に大きな変化があったのは、現在設立後7年目を迎える大学コンソーシアム岡山である(表2⁴⁾)。というのも既報¹⁾で紹介したように2009年度から2011年度まで大学コンソーシアム岡山での合意のもとに、岡山理科大

学を代表校として、「岡山オルガノン(平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム選定取組(教育GP)「岡山オルガノン」の構築(学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育)」が展開されていた⁵⁾。今回報告する2011年度から2012年度にかけては、単年度あたり数千万円の補助を文部科学省より受けることによって、展開していた「岡山オルガノン」事業を、基本的には参画大学の会費収入をもって実働している大学コンソーシアム岡山に継続的に継承するかが非常に大きな問題となっていた。大学コンソーシアム岡山では通常9月と3月に代表者委員会(各参画大学では学長が大学コンソーシアム岡山の代表者となっている)が設けられ、9月の段階で、

表1 川崎医科大学における大学連携，産学官連携等の対外活動の一覧

-
1. 大学連携事業
 - 1) 大学コンソーシアム岡山
 - 2) 「岡山オルガノン」事業
 - 3) 倉敷市大学連携推進会議
 2. 産学官連携事業
 - 1) 国レベル
 - (1) 産学官連携推進会議
 - (2) 科学・技術フェスタ
 - 2) 医学系大産学連携ネットワーク（東京医科歯科大学）
 - 3) 岡山県
 - (1) 岡山県産学官連携推進会議

全体会議	産業戦略本部	産業戦略プロジェクト委員会
------	--------	---------------
 - (2) ものづくり重点4分野における産業クラスター形成に向けた取組

精密生産技術	i) ミクロものづくり岡山推進協議会
医療・福祉・健康	i) メディカルテクノおかやま
	ii) ハートフルビジネスおかやま
環境	i) 中四国環境ビジネスネット
バイオ	i) セルロース系バイオマス超微粉碎技術研究会
	ii) おかやまバイオマスプラスチック研究会
	iii) おかやま食料産業クラスター協議会
 - (3) その他，研究会等組織

おかやま生体信号研究会
おかやまバイオアクティブ研究会
水島工業地帯産官学懇談会
 - (4) 岡山医用工学研究会
 - (5) 岡山県企業誘致推進協議会
 - (6) (2010年度) 岡山県中小企業応援センター
(2011年度) 中小企業支援ネットワーク強化事業
 3. その他岡山県・倉敷市の事業
 - 1) 岡山発国際貢献推進協議会
備中地域打ち合わせ会
 - 2) 倉敷市国際交流協会
 4. 民間の産学官連携推進事業
 - 1) 国際バイオエキスポ
 - 2) BioJapan 2011
-

ほぼ次年度への方針が決定されるのであるが、2011年度の9月の段階では、オルガノン事業の継承について大学コンソーシアム岡山自体の設立コンセプトとの整合性や、ここ3年間文部科学省からの補助金で賄われた事業をそのまま継承するには各参画大学の費用負担が膨大になることもあって、事業展開の論理的な妥当性や事

業展開に係る費用負担についての議論や疑問が多く出された。

それに伴って、「岡山オルガノン」側では将来構想委員会，そして大学コンソーシアム岡山側では運営委員会を中心に，大学コンソーシアム岡山の参画大学が了解した上で「岡山オルガノン」事業の中でそのコンセプトの基本となる

表2 「大学コンソーシアム岡山」における事業と参加機関

1. 事業
1) 大学相互の協力と情報交換
2) 地域経済界との交流
3) 地域社会との交流と生涯学習の推進
4) 地域高校との連携
5) 地域創生学の構築
6) 地域発信による国際交流
2. 参加機関
1) 大学 (16大学)
岡山大学・岡山県立大学・岡山学院大学・岡山商科大学・岡山理科大学
川崎医科大学・川崎医療福祉大学・環太平洋大学・吉備国際大学
倉敷芸術科学大学・くらしき作陽大学・山陽学園大学・就実大学
中国学園大学・ノートルダム清心女子大学・美作大学
2) 大学以外
岡山県・岡山経済同友会
3) 特別会員 (短大および高専)
倉敷市立短期大学・山陽学園短期大学・就実短期大学・中国短期大学
津山工業高等専門学校

遠隔授業 (LIVE配信ならびにVOD (video on demand) による単位互換制度), および地域活性化事業としての「日ようび子ども大学」と「エコナイト」事業を限られた予算範囲の中で継承し, 大学コンソーシアム岡山組織の再構築を行うことが検討されてきた。会費面では「岡山オルガノン」事業の継承については, 2012年度からの大学コンソーシアム岡山の中では, 通常の会費に伴う事業とは別枠で, 3か年の事業計画として「事業費」としての徴収を行うこと, さらに2011年度段階で, 大学コンソーシアム岡山では種々の実施行事について事業部体制を設け, 大学教育事業部で単位互換制度, 産学官連携事業部で県内企業などによる講義やインターンシップ支援事業, および2011年度から県の要請も受けて発足した就職支援委員会活動などが行われており, さらに社会人教育事業部によって吉備創生カレッジという一般市民対象による生涯学習講座 (受講料が必要) の展開をしていたが, 「岡山オルガノン」事業を継続すること

に伴い, 「岡山オルガノン」で展開していた委員会制度 (それまでの事業部制度では, それぞれの事業部の企画委員 (主任と副主任の2名) が企画運営を任されていた) を継承し, 大学コンソーシアム岡山自体の事業展開の企画運営についての改組を行うことが考案された (図1)。

2012年1月20日に大学コンソーシアム岡山では第13回代表者会議が設けられ, この会議にて「岡山オルガノン」事業の継承が, 事業費としての費用徴収や上記の改組も含めて合意が得られ, いわば新生「大学コンソーシアム岡山」が2012年度より再出発し, 現在に至っている。

2011年度の本誌で紹介した多くの事業について (表1), この1年間で事業参画したり変化のあったものを中心に, 以下, 概要を紹介, 説明し, さらに考察を加えていく。

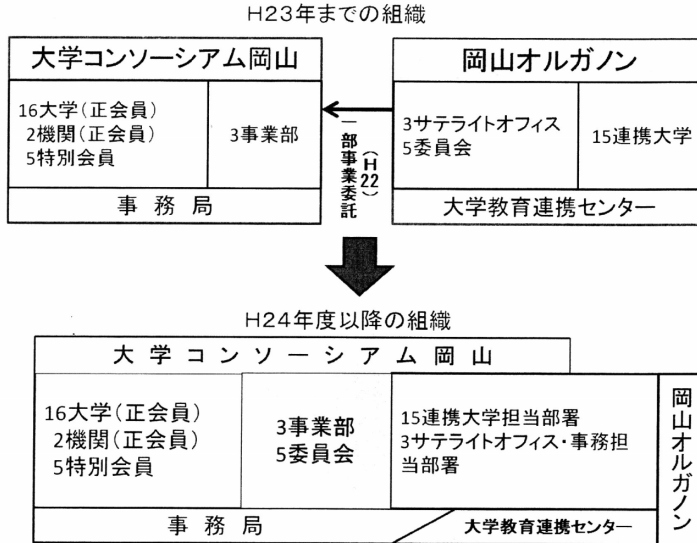
1. 大学コンソーシアム岡山

「はじめに」で記したように, 2011年度から2012年度にかけては, 「岡山オルガノン」⁵⁾の継

岡山オルガノンの事業継承に関する諸条件

1. 事業継承後の組織形態

(1) H24年度以降の組織図



(2) 委員会の新設と統合

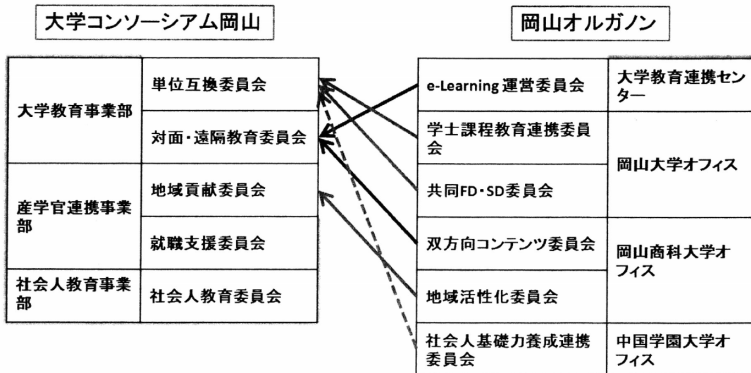


図1 「岡山オルガノン」の大学コンソーシアム岡山への事業継承に関する諸条件 (大学コンソーシアム岡山第13回代表者会議資料より抜粋)

承について多くの議論が生じたが、予算枠の確保と大学コンソーシアム岡山自体の改組により2012年度から新たに種々の事業が展開されている。また、大学コンソーシアム岡山⁴⁾では発足時より代表校を合議の上で決定してきており1期2年で交代してきている。最初は岡山大学、2期目は「岡山オルガノン」の応募と事業実施も表裏一体で進められていたので「岡山オルガ

ノン」の代表校である岡山理科大学、3期目が岡山商科大学であった。2012年度からの2年は4期目にあたるのであるが、「岡山オルガノン」の事業継承の重要性を鑑み、再び岡山理科大学が代表校となっている(なお、今後の代表校については、当該時期の代表校が次期代表校を指名できることの合意も2011年度最後の代表者委員会で決定された)。

1) 大学教育事業部活動

大学教育事業部の中心は単位互換制度の企画運営ならびに推進である。その目的を達成するために、主に企画や推進に大学教員が討議を進める対面・遠隔教育委員会と、事務手続き等の円滑な施行を検討する大学職員主体の単位互換委員会があり、後者には本学事務部教務課から参加していただいている。

大学教育事業では、従来大学コンソーシアム岡山が実施していた対面授業での単位互換制度(すなわち、受講学生が受講科目の展開されている他学へ赴き、受講する制度)と、「岡山オルガノン」で整備したLIVE配信あるいはVOD(video on demand)コンテンツの視聴による単位互換制度の両者を併せて展開している。

単位互換制度における本学の問題点は、他の大学コンソーシアム岡山参画大学と異なり、本学が医科単科であることから、独自の学年制、学期制を展開し、独自の進級ならびに卒業の判断基準を設けていることにある⁶⁻⁸⁾。加えて、現在1および2年生で展開されている教養選択科目以外は必修であり、選択科目も曜日と時限が決まっている中での選択になっている。他学では前後期制、単位制であり通常は15コマ(+試験)で2単位の認定を受ける。また卒業に必要な単位数も偶数であるので、15コマ未満の科目で1単位の取得をする場合には、さらに別の1単位科目を取得していくことになる。また通常は曜日と時限が決まっていることが多く、本学のように同一科目の中で、曜日も時限も異なるコマが展開されていることは少ない。これらの帰結として、本学学生が他学の科目を受講することは物理的に非常に困難な部分が多い。勿論、単位互換を度外視して知的好奇心からVOD科目を受講することは可能であるが、自ずと放課後などの時間帯を使うことになり、なかなかタフな状況である。

しかしながら、参画大学の一つとして、川崎

医科大学では1年生の「生命科学」を対面式単位互換科目としてここ数年提供している。残念ながら他学からの受講生の事例は未だないものの、上記事由によって本学学生が他学の科目を受講し難い状況がある中で、せめて科目提供は実施したいということである。さらに、LIVE配信授業については、「岡山オルガノン」事業の中で、この遠隔講義制度が開始された2010年度より2年生の教養選択リベラルアーツの中で、筆頭著者が担当していた講義を配信科目とした¹⁾。教養科目であるので他学の全学年を対象とすること、それでも医学医療に携わる講師が一般学生に向けて健康とか病期について述べる授業であることで配信科目としても価値はあるであろうと公安した結果であった。勿論2010年度も2011年度も10コマ、1単位の科目ではあったが、幸いにも最初の年度は岡山大学から1名、2010年度は岡山理科大学から2名の受講生が参画してくれた。さらに今年度も同じ授業枠で筆頭著者が展開した「健康と素因・環境そして生活」をLIVE配信授業とし、岡山理科大学からの2名の受講生とともに本学39名の受講生で科目を実施した。

また2011年度まではVOD科目の提供はしていなかったが、「岡山オルガノン」事業あるいは大学コンソーシアム岡山の遠隔授業の体制として、当該大学での対面式授業(通常の授業)の録画と若干の編集によるコンテンツのVOD配信も可能であることが判明したため、2012年度は前期にLIVE配信した上記科目を、後期にVOD科目として提供することとした。一部の授業の中での余談部分などを夏季休暇中に編集、再録画を実施し、また、VOD配信の場合は一回ごとの授業の途中で、不定時にその授業における課題を提示することで、ダウンロードだけで受講したふりをすることの抑止をしているが、その編集も行い、後期に配信する予定としている(なお、これらの遠隔授業については、

本学教材教員センターの長田氏、島村氏の多大な協力の上で実施できたものであり、この場を借りて深謝したい。ちなみに、2012年度後期のVOD配信には、岡山大学、岡山理科大学、くらしき作陽大学そして、山陽学園大学から計15名の受講生が集まってくれた。

いわゆる全入時代（18歳人口が全体の大学入学定員より少ない）を迎えた今、個々の大学は入学生確保に独自性を打ち出すことに躍起になっている現状の中での単位互換制度については、不要論も含めて種々の論議が展開されているのであるが、例えば、教養科目において15コマの授業設定を、いくつかの大学の教員がLIVEやVOD配信で参加して1科目を構成するとか、あるいは他学の教養科目をそのまま遠隔授業で取り入れることによって、それぞれの大学が有する経費を独自性の表出に集中的に使用できる可能性などもあり、今後の展開次第ではまだまだ遠隔授業の有用な利用法は開拓できる可能性もある。また、医療医学系などは、県内にも多くの学部学科が存在するが、遠隔授業を

用いることで、学部教育のみならず大学院教育においてもその利用は考慮可能であろうと思われる。現実的に本学も参画している岡山大学を中心とした文部科学省平成24年度がんプロフェッショナル陽性基盤推進プラン採択「中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム」⁹⁾などでもVODコンテンツによる授業配信が実施されていることもあり、こういった展開を広く進めていくことは、次代の教育の中心となっていくものであると考えられる。

そういう意味合いも含めて、制限が厳しい中ではあるが、本学でも大学コンソーシアム岡山における遠隔授業に対して、参画していくことは必要なことであろうと思われる。

2) 社会人教育事業部活動

社会人教育事業部では吉備創生カレッジを展開している¹⁰⁾。筆頭著者は2011年度から本事業部の主任を務め、2012年度は社会人教育委員会の長を仰せつかった。こういった事情もあり、医科単科の大学であることにより十分な科目配信は適わない中でも、毎年度、前期と後期を併

表3 2012年度前期および後期の吉備創生カレッジ 川崎医科大学提供科目

科目名	年月日(含：予定)	担当教員	内容
前期			
糖尿病と上手につきあうために	平成24年6月29日	柱本 満	糖尿病とは
	平成24年7月13日	宗 友厚	生活習慣と糖尿病
	平成24年7月27日	川崎 史子	糖尿病を克服するには
健康の素因・環境そして行動	平成24年6月21日	大槻 剛巳	健康の内因・素因
	平成24年7月5日		健康の外因・環境
	平成24年7月19日		健康と行動・態度
後期			
病気に負けない人生を送ろう	平成25年1月21日	山辻 知樹	本当はこわくないがんのしくみ
	平成25年2月4日	中島 一毅	おちちのことをべんきょうしませんか
	平成25年2月18日	森田 一郎	大切断ぜ口、重症虚血肢～フットケア最前線
「がん」についての考察	平成25年1月10日	大槻 剛巳	癌細胞とは？そして環境からの発癌
	平成25年1月24日		いくつかの癌の概説と、最新の癌治療
	平成25年2月7日		癌の予防、そして癌と告知

平成24年度吉備創生カレッジ後期 特別講座 大学コンソーシアム岡山 SD講演会

大学における運動部活動 —活動の留意点と負傷や熱中症対策—

日時：2012年8月31日(金) 10時～12時30分
場所：山陽新聞本社ビル 6階

〒700-8634 岡山市北区柳町2-1-1
TEL：086-803-8018 FAX：086-803-8117

講演1

運動部におけるコンディショニングと傷害予防 —プロサッカーチームからの検証—

阿部信寛先生

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科
運動器知能化システム開発講座
フアジャーノ岡山：チームドクター（チーフ）

FAGIANO
Okayama



講演2

運動部活動の実際

太田真司先生

吉備国際大学スポーツ社会科
FC高梁吉備国際大学Charme監督
2009年ユニバーシアード日本女子代表監督
2011年ユニバーシアード日本女子代表コーチ
日本サッカー協会公認A級コーチライセンス
岡山県サッカー協会技術委員

講演3

熱中症対策

鈴木幸一郎先生

川崎医科大学救急医学
日本救急医学会認定救急科専門医・指導医
日本集中治療医学会専門医
日本熱傷学会認定医
日本外科学会専門医



- 事前申込が必要です。8月27日(月)までにお申し込みください。
- 一般の方は、参加費700円が必要となります。当日、山陽新聞本社ビル6階に持参ください。
- 駐車場がございませんので、公共交通機関でご来場ください。
お車の場合には、向かいの大型商業施設など近隣の駐車場をご利用ください。

*SDとは=大学職員の能力開発(Staff Development)という意味です。

大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山 会員

お申込み・ご連絡・お問い合わせ先
大学コンソーシアム岡山事務局
〒700-0005 岡山市北区理大町1-1
TEL・FAX：086-256-9771
受付時間：9:00～17:00 ※土日・祝日は除きます
E-Mail：office@consortium-okayama.jp

山陽新聞社

一般の方

お申込み・ご連絡・お問い合わせ先
山陽新聞社 吉備創生カレッジ事務局
〒700-8634 岡山市北区柳町2-1-1
TEL：086-803-8018 FAX：086-803-8117
受付時間：平日：9:30～19:00
日曜：9:30～17:30

図2 大学コンソーシアム岡山，社会人事業部が展開する吉備創生カレッジ，平成24年度後期の特別科目としてのSD講義のチラシ

せて2～4科目の提供を行っている。

2011年度までに吉備創生カレッジで科目提供していただいた川崎医科大学発の科目については既に報告したが¹⁾、2012年度は表3のごとく科目提供を受けた。なお、筆頭著者が連続して科目提供しているのは、この事業の委員長として、2011年度までより若干、全体の提供科目数が少ない状況が続いているため、委員長として提供しているとご理解いただきたい。

吉備創生カレッジでは「岡山オルガノン」事業が展開されていた頃より、その委託を受けて、参画大学の教員を主たる対象としたSD講義（Staff Development講義）を設けていた¹⁾。2012年度は事業継承などの諸問題もあって、準備が十分にできていなかったが、図2に示すように「大学における運動部活動 活動の留意点と負傷や熱中症対策」と題して、2012年8月31日に山陽新聞本社ビル（通常の吉備創生カレッジ科目も固定会場としてここで実施されている）にて実施することが決まった。そして、このSD講義には、川崎医科大学から救急医学・鈴木 幸一郎教授、ならびに2012年10月16日付で川崎医科大学附属川崎病院、スポーツ・外傷整形外科教授としてご赴任いただいた岡山大学整形外科准教授、阿部信寛先生が参加して下さることになった。急なご連絡にも関わらずご快諾をいただいた両先生には謹んで感謝の意を表したい。

吉備創生カレッジで人気の、すなわち受講生が多いのは、特に吉備地域の歴史や文化に題材を求めた講義である。多くは仕事からリタイアされた後も、知的好奇心の赴くままに大学の授業を身近に感じ、学習しようという意識の高い方々であり、岡山県内の4年制大学の集合体としての大学コンソーシアム岡山として、社会貢献という意味でも重要な事業となっていると考えられる。また本事業には山陽新聞社が教室提供ならびに山陽新聞での科目紹介などの広告掲

示などで、協力機関として多大な尽力をしてくださっている。講師料などは、些少でもあり、また通常の講演会などと比較すると講師へのサービスは芳しくないかも知れないが、記載した事業の意義をご理解の上、今後とも教員各位には是非ご協力を頂きたく思っている。

また受講の中で「2科目の受講（3回×2科目）で1単位取得とします（全6回の科目は1科目で1単位）。8種類の講座の中から合計で20単位以上取得された方には「認定証」を授与します。」ということが設定されており、2012年3月10日には、認定証授賞式が執り行われ、筆頭著者は事業部委員長として授与に携わってきた。お二人は既に60単位、40単位を取得しているもので、そのご努力と熱心なご姿勢には頭が下がる思いである。

2012年(平成24年)3月10日 土曜日 **第2全県**

山陽新聞

60、40単位取得 2人に認定証

吉備創生カレッジ

生涯学習講座「吉備創生カレッジ」(大学コンソーシアム岡山、山陽新聞社共催)の単
位認定式が9日、岡山
市北区柳町の山陽新聞
カルチャープラザ本部
教室であり、60単位を
取得した倉敷市児島輝
田町、横田茂さん(89)
盾を受け取り、横田さ
ら、40単位
の同市西
坂、介護職
員青木明美
さん(63)に
認定証が贈
られた。
2人とも
2007年
の開講以
来、歴史や
文化、医療
福祉など幅
広い科目を
受講。大槻
剛巳川崎医
03(8018)
(松島健)



認定証を受け取る横田さん(中)
松島さん(左)

と、40単位
の同市西
坂、介護職
員青木明美
さん(63)に
認定証が贈
られた。
2人とも
2007年
の開講以
来、歴史や
文化、医療
福祉など幅
広い科目を
受講。大槻
剛巳川崎医
03(8018)
(松島健)

図3 大学コンソーシアム岡山、社会事業部が展開する吉備創生カレッジにおける単位取得者の認定証と盾の授賞式を報道する山陽新聞紙面（2012年3月10日の記事）

3) 産学官連携事業部活動

このうち、就職支援委員会については、各大学の就職支援情報の共有、県や県内の経営関連団体からの情報の一元化、さらには岡山県中小企業団体中央会¹¹⁾が展開するインターンシップ事業への参画などが実施されているが、本学が医科単科であることより、これらの事業展開とは立ち位置が異なっている。委員会制度になったので、参画はしているが、内容的には本学の卒業生の就職は、厚生労働省の初期研修マッチング制度¹²⁾で実施されているため、縁遠い処である。

地域貢献委員会活動は、2つのイベントを執り行っている。

一つは「日ようび子ども大学」として、特に就学前から小学校低～中学年の児童とその保護者を対象にしたイベントで、2011年度に「岡山オルガノン」事業の中で、初めての試みとして岡山商科大学を会場として実施されたものであるが、参加者数も非常に多く(2011年度で500人前後)、大学コンソーシアム岡山で継承する

ことが決定していた事業である¹³⁾。今年度は県からの申し出もあり、岡山県生涯学習センター、池田動物園などがある京山地区の「京山祭」との共催という形で、生涯学習センターを会場として2012年6月24日(日曜日)に実施された。2011年度は本学は参画しなかったが、今年度は、大槻および寺田の相談の上、学生の参加も募り「からだの仕組みや病気を知ろう」をテーマに出展した(図4)。ブースでは参加学生を中心に、「からだパズル」、「聴診器で心臓の音を聞いてみよう」、「腱反射を体験してみよう」、「本物の注射器に触ってみよう」、「注射は怖くない・・・紙芝居」そして「寺田教授の相談コーナー」を展開した。本学のブースのみで、約250名を超える来場者があり、また、全体としても非常に盛況なイベントであった(各大学からのスタッフ参加者を含めると約2,000人の来場を得たそうである)。他の大学と肩を並べて、本学も一つのブースを出展すること、チラシや、また、来場者が場内を歩いている中で、「川崎医科大学」の看板を見つけて、そこで展開され



図4 大学コンソーシアム岡山の地域貢献委員会が実施した「日ようび子ども大学」(2012年6月24日)の川崎医科大学ブース出展の様子。

ている内容に興味を持ってくれるだけでも、参加の価値は十分あったと感じられる。また、学生諸子は本当に、頑張ってくれた。子供たちへの対応も当初は少し戸惑っていたものの、子供たちの笑顔に触れるたびに、慣れてきて、上手にやってくれた。参加してくれた子供たちや親御さんも、うれしく思ってくれていた様子であった。さらに、OHK（岡山放送）のTVニュースでも、本学のブースの様子が映像として流れ、山陽新聞の子供新聞である「さん太タイムズ」にも本学のブースの様子は記事として取り上げられていた。改めて以下の参加学生ならびに事務部の方に深謝したい。

参加学生（代表）5年生 杉原桃子君，6年生 河田麻里子君，5年生 赤木貴彦君，同井上蓉子君，同 道佛美帆子君，同 横井溪一君，2年生 後藤信太郎君ならびに事務部 奥山学務課長，川西秘書室長。

学生にとってもよい経験にもなったと考えられ、今後も参画を検討していきたいイベントであった。ただし、おそらく時期は6月末になると考えられるので、1学期期末試験の直前となるため、どうしても5～6年生の有志を募ることになるうとは思われるが、本事業の主旨を理解の上、積極的な参加を促したい。

さらに地域貢献委員会では「エコナイト」事

業を実施している。本事業は数年前より岡山理科大学などの学校法人加計学園で行われてきた「七夕エコナイト」（7月7日に20時より大学学舎のライトダウンを行い、エコキャンドルやアコースティックライブ、そしてエコロジーの討論会などを実施するイベント）を「岡山オルガノン」で参画大学に拡充したもので、2011年度にもほぼ全大学が参画し、それぞれの大学でのイベント以外にも、岡山県やいくつかのNPOあるいは企業とも連携して、岡山駅でイベントを行ったりしたものである¹³⁾。加えて、「マイ・カー乗るまあday」として石油燃料使用抑制などの呼びかけも実施され大きなイベントとなった。しかし、本学では1学期期末試験直後であること、附属病院が併設されていることもあって十分な参加は出来なかった。2012年度は「マイ・カー乗るまあday」についての掲示をするとともに、大槻が大学コンソーシアム岡山の別事業の委員長などを務めている関係もあって、岡山駅東口広場でのライトダウンとエコキャンドルによる東北への復興祈念、いくつかの大学のアカペラコーラスや軽音楽部、さらには「うらじゃ」連によるイベントの中で、楽曲紹介をした（図5）。一応の参加ということでご理解いただきたい。



図5 大学コンソーシアム岡山の地域貢献委員会が実施した「エコナイト」（2012年7月7日）の岡山駅東口広場のイベントの様子

4) 大学コンソーシアム岡山に関する考察

大学コンソーシアム岡山の各事業における考察については、それぞれの項で記載した。全体として、相応の会費と「岡山オルガノン」継承事業については事業費を支出している中で、本学としてどのようなスタンスで大学コンソーシアム岡山に向き合うべきか、ということは、種々の意見が出る場所である。特に中心的な事業である単位互換制度について、前述のごとく本学学生がこの制度を利用できないことから、参画自体に対して否定的な意見が寄せられることも十分理解できる。ただし、一般市民や産官の視点からすると、その地域に存在する高等教育機関としての地域（在住する市民や企業も含めて）への貢献あるいは協力・連携関係の構築という意味でも必要な事業ではないかとも考えられる。勿論、大学コンソーシアム事業の先駆けである「大学コンソーシアム京都」¹⁴⁾などは、官からの経済的援助も大きく、また大学数も多いことにより非常に発展的な展開を実施していることを考えると、現在の大学コンソーシアム岡山の形態が、理想像に近い点という点にも疑問は残る。ただし、既に記載したように、ここで展開されてきた内容は、大学院の遠隔授業形式や、地域との垣根を低くすることへのイベントへの参画など、意義を見出せる点もあろうかと思われる。また、大学コンソーシアム岡山で利用しているTV会議システム（LIVE配信授業で使用）については、本学で設備拡充を行うことにより、附属川崎病院との会議の共有などにも利用できている。大学コンソーシアム岡山としては、今後とも文部科学省による高等教育に関連する大型の補助金への応募なども検討していることもあり、中心的とはいえないまでも、真摯に参画を継続することは、翻って本学の教育事業を考慮する上でも何らかの比較や示唆が得られることであろうかと考える。

2. 倉敷市大学連携事業

2010年度から開始された倉敷市大学連携事業は、再選された伊東市長の最初の立候補時の公約にもあり、ライフパーク倉敷を拠点に市民講座の形成という様式で展開されている¹⁵⁾。2010年らびに2011年度にご協力いただいた本学教員の先生方については既報で紹介した¹⁾。今年度も、4回シリーズの市民講座を本学から提供することにしており脊椎・災害整形外科学・長谷川徹教授、骨・関節整形外科学・三谷茂教授、リウマチ・膠原病学・守田吉孝教授に大槻を加えて、「運動器：骨・関節・筋肉などの話」として、2012年7～10月に計4回の予定で実施している。この講座は、先の吉備創生カレッジと異なり受講料は必要ないため30～50名の受講者が来場され、活気にあふれた授業となることが多い。

倉敷市からは、これらの市民講座については3年目となって各大学の取り組みや、市民の認識もある程度定まった感もあって、今年度も含めて将来的に、より小規模の公民館レベルでの講演会の実施（本年5月に大槻は、水島公民館で高齢者を対象に展開されている「水島寿大学」の講師として招聘され講義を行ったが熱心に受講されている）、あるいは派生的に、中学や高校への出前授業・大学生を対象とした市長との座談会・インターンシップの導入などの企画を考慮中である。

本学の場合の、地域貢献という意味合いでは附属病院の展開する医療面での連携や地域貢献事業が主体となるため¹⁶⁾、高等教育機関としての位置付けによる事業について、独自の展開は多くはないものの（いくつかの市民講座や、学園が実施する「かわさき 夏子ども体験教室」¹⁷⁾などがあるが）、倉敷市に立地する大学として、良好な協力関係の中で、参画を継続することは、必要なことであろうと考える。

3. その他の大学あるいは産学官連携事業

本学は、その他表1に挙げている国レベルの事業、あるいは東京医科歯科大学が中心となっている医学系大学産学連携ネットワーク¹⁸⁾、あるいは県内での産学官連携推進会議、「メディカルテクノおかやま」¹⁹⁾や「おかやま生体信号研究会」²⁰⁾、「岡山県医用工学研究会」²¹⁾などにも参画し、その情報は所属長へのメール配信という形式で教員への連絡・開示を怠らないように努めている。

さらに、岡山県国際貢献推進協議会²²⁾や倉敷市国際交流協会²³⁾にも会員として参画しており、総会には、学長の代理として大槻が参加したりもしている。

これらの事業について、既報告ではそれぞれの事業展開の詳細なども紹介したが、2011年度から2012年度にかけて大きな変化は生じていないので、本稿でのそれぞれの総会その他の内容の報告は割愛させていただく。それぞれ参加した会議その他の資料などは、事務部に保管してあるので、詳細を知りたい場合には、大槻あるいは事務部にご連絡いただければ対応可能と考える。

ただし、2012年9月4日に行われた岡山県産学官連携推進会議において、当会議が10年目を迎えたことを受けて、基盤整備は終了したと判断し、今後はこれまでの10年で整備された基盤を中心として、具体的な産業振興プロジェクトの推進に軸足を移動することが決定された。それに伴って、本学も委員となっている岡山産学官連携センターの廃止や、筆頭著者が副委員長を務める産業戦略プロジェクト委員会も終了し、新たに全体会議の下に幹事会を設け実行していくことが決定された。

メディカルテクノおかやまでは、昨年度より岡山大学や県が産学官連携事業として展開する「おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)」事業²⁴⁾の管理運営を行っているが、も

ちろん、それ以外に、この組織は元来医歯薬系を中心に新たな医療産業および医療系ベンチャー企業の創出を目指して発足したのもでもあり、特に在籍されているコーディネーターの方は、これらの視点での大学のシーズ発掘に従事されており、その一環として、2012年には8月4日に実施された第3回川崎医科大学学術集会²⁵⁾にも参加された。多くの発表などを受講され、今後、シーズとしての興味のある発表については、大槻を介してコンタクトを取って来られる可能性もあるので、そういった場合には、十分にご対応いただきたいと考える。

4. 考察

2011年度の本誌に、筆頭著者が担当してから参画展開した大学連携、産学官連携等の対外活動について、国際貢献や留学生の受け入れなども含めて、報告した。

本稿は、その後の展開ということで、2011年度半ばから2012年度半ばにかけての展開を報告し、それぞれについて、本学がそれぞれの事業に対峙するにあたっての考案を記載した。

学生活動における留学生の受け入れや、本学学生の医学医療を中心とした短期留学については、この1年では、既に報告しているESSクラブが中心となった国際医学生連盟(IFMSA)を介した海外活動に現在5学年の奥井侑里君がドイツを訪れたことが挙げられるが³⁾、それ以外には、大きな展開は無かったように感じられる。

また記載してこなかった変化として、岡山TLOの廃止がある。これには種々の事由もあるのだが、いずれにしても2011年度末をもって廃止となり、今後、本学でも(あるいは学園として)TLOに代替を委嘱していた知的財産の保有や特許申請についての対応を考えなければならない事態になっている。筆頭著者の担当部門とは異なるため、詳細を熟知していないので

憶測などの記載は避けるが、大学の研究事業としては知的財産の管理なども必要になってくるので、今後有効な展開を期待したい。

本学の内包する医科単科大学であるということ、学生が近畿、岡山・広島、あるいは北部九州が多いとしても全国から参集していることなどから、岡山県あるいは倉敷市に存在する大学として、他の大学あるいは自治体や産業界との連携について、十分に下地を形成できないままに、教育や学生支援の業務を中心に展開せざるを得ない状況は十分に理解できることである。しかし、その中で一般市民の認識としての高等教育機関の一つとして、また、医学医療という分野が、一般市民の健康や疾病と向き合うということ、さらには国の産業イノベーションの方策としても環境を考えるGreen Innovationとともに、長寿高齢化社会という現実を背景にLife Innovation が謳われている状況の中で²⁶⁾、本学教員も多角的な研究や教育の創造を考慮しながら、種々の業務に対峙していくことも必要かもしれないと感じるところである。

謝辞

ここに記載した本学における対外活動については、記載した以外にも多くの事務部の職員あるいは教員の先生方のご協力のご尽力を以て、展開しております。すべての方々のお名前を挙げるにはいかなないのですが、誌上を借りまして謹んで感謝を申し上げます。

参考文献

- 1) 大槻剛巳, 毛利聡, 虫明基, 富田正文, 西村泰光, 松島眞治, 勝山博信, 川西礼美, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その1. 川崎医学会誌 一般教養篇 . 37: 31-46, 2011
- 2) 大槻剛巳, 小笠原康夫, 柏原直樹, 佐藤稔, 大澤裕, 矢田豊隆, 毛利聡, 山内明, 武井直子, 前田恵, 西村泰光, 小野寺昇, 望月精一, 茅野功, 川西礼美, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その2. 川崎医学会誌 一般教養篇 . 37: 47-59, 2011
- 3) 大槻剛巳, 日野啓輔, 種本和雄, 藤田喜久, 中塚秀輝, 長谷川徹, 中野貴司, 田中孝明, 芝田敬, 松崎秀紀, 李順姫, 武井直子, 西村泰光, 清蔭恵美, 樋田一徳, 佐々木和信, 川西礼美, 福永仁夫. 川崎医科大学における大学連携, 産学官連携等, 対外活動について: その3. 川崎医学会誌 一般教養篇 . 37: 61-75, 2011
- 4) 大学コンソーシアム岡山 URL: <http://www.consortium-okayama.jp/>
- 5) 岡山オルガノンの構築 URL: <http://okayama-organon.jp/>
- 6) 履修について. 2012学習の手引き. 川崎医科大学 2012, pp3-6
- 7) 川崎医科大学学則. 2012 学習の手引き. 川崎医科大学 2012, pp14-25
- 8) 試験及び進級等に関する規定. 2012 学習の手引き. 川崎医科大学 2012, pp28-29
- 9) 中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム <http://www.chushiganpro.jp/>
- 10) 吉備創生カレッジ URL: <http://www.consortium-okayama.jp/kibi-sousei.html>
- 11) 岡山県中小企業団体中央会 URL: <http://www.okachu.or.jp/>
- 12) 厚生労働省医師臨床研修制度のホームページ URL: http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/rinsyo/index.html
- 13) 大崎紘一. 地域発信力育成のための取組. 文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」事業報告書: 事業名称「岡山オルガノン」の構築 学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育 . 編集・発行 岡山オルガノン 大学教育連携センター 2012, pp67-106

- 14) 大学コンソーシアム京都 URL : <http://www.consortium.or.jp/>
- 15) 倉敷市大学連携講座 URL : <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/dd.aspx?menuid=11923>
- 16) 川崎医科大学附属病院地域医療連携室 URL : <http://www.kawasaki-m.ac.jp/hospital/tiikiiryuu/index.php>
- 17) かわさき 夏の子ども体験教室 2012 URL : <http://www.kawasaki-m.ac.jp/gakuen/subpage/summer.php>
- 18) 医学系大学産学連携ネットワーク協議会 (med U-net) URL : <http://www.medu-net.jp/>
- 19) メディカルテクノ岡山 URL : <http://www.op.tic.or.jp/medical/>
- 20) おかやま生体信号研究会 URL : <http://mcrlab.sys.okayama-u.ac.jp/obiss/index.htm>
- 21) 岡山県医用工学研究会 URL : <https://sites.google.com/site/okayamakeniyoukougaku/>
- 22) 岡山県国際貢献推進協議会 URL : <http://www.ocpic.jp/>
- 23) 倉敷市国際交流協会 URL : <http://www.city.kurashiki.okayama.jp/dd.aspx?menuid=3729>
- 24) おかやまメディカルイノベーションセンター URL : <http://www.okayama-u.ac.jp/user/crc/>
- 25) 第3回川崎医科大学学術集会 URL : <http://www.kawasakim.ac.jp/soc/med/06%202012%20annual%20meeting.html>
- 26) 新成長戦略(基本方針)(平成21年12月30日閣議決定) URL : <http://www5.cao.go.jp/seisaku/kaigi/shiryuu/0001s-100126/pdf/item02.pdf>